

***昭和初期の65 cm望遠鏡ドームの額入り写真の寄贈**

アーカイブ新聞に国立天文台の大赤道儀室(65 cm屈折望遠鏡ドーム)のドームに窓があったという記事を書いたことがある。過去のアーカイブ室新聞を見ると170号、171号、303号に窓の記事を書いている。171号と301号に掲載した写真1が昭和初期のドーム完成後間もなくの窓が写った美しい光景での写真である。

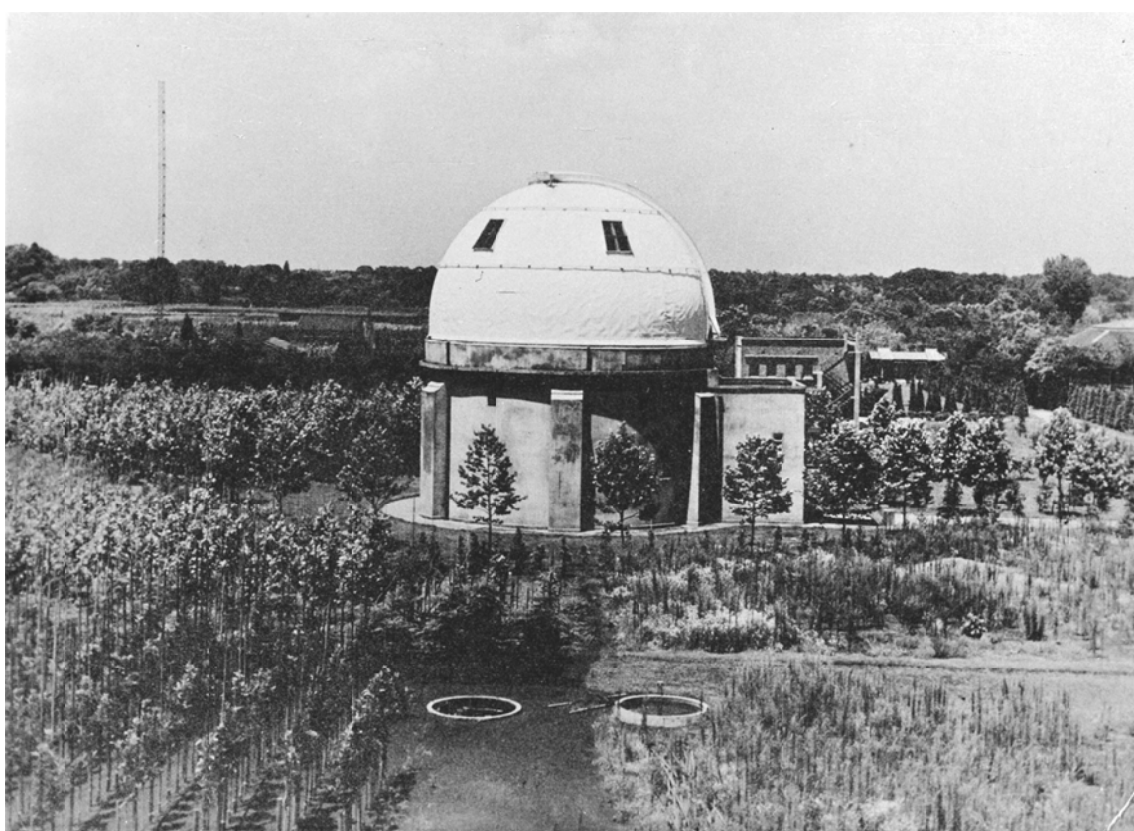


写真1

アーカイブ室新聞第171号に掲載した写真は、天文情報センターの小池氏から入手した写真であったが、今回は、この写真を撮影した方のご子息で定年まで東京天文台天文時部に勤務されていた加藤正氏から、この記念碑的な写真を額縁に入れた状態で寄贈して頂いた(写真2)。この写真で見ると、昭和初期には東京天文台の樹木はまだ小さく、この広大な土地が育苗場であった様子が見て取れる。ドームへの道路、ドームの周りには「プラタナス」が植えられているのが分かる。ドームの左にそびえているのは三鷹国際報時所アンテナの60m鉄塔である。またドーム右には旧図書館、連合子午儀室が写っており、右端には旧本館の一部が写っている。この写真に写っているプラタナスの並木は今では見る

影もないが、その痕跡は僅かに残っている。このドームの中の 65 cm 望遠鏡が観測に使われていた時代には低く剪定されていたが、今は巨木に育って残っているものがドームの周りに数本数えられる（写真 3、4）。



写真 2



写真 3



写真 4

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp